

2. 分野別状況 (2) 地域活性化総合特区 ② ライフ分野

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
先導的な地域医療の活性化(ライフイノベーション)総合特区 (徳島県)	4.5	<p>進捗度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師不足対策及び在宅医療の推進 128% ・糖尿病対策の推進 151% 	<p>規制の特例等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合メディカルゾーン本部」内を単一の病院とみなした制度・法令上の取扱い等 ・<u>財政支援等</u> ・寄附講座設置事業 ・医師修学資金貸与事業等 ・<u>地域独自の取組</u> ・医療機関や製品開発等に取り組み中小企業者への融資制度の設置等 	4.5	<ul style="list-style-type: none"> ・医師・看護師間のタスクシフトを進めるための特定行為研修が順調に進み、実際に多くの現場で特定行為が実践されている点が評価できる。 ・ウォーキングイベント参加者の増加や、糖尿病関連サービスの開発が進んでいる点も評価できる。 ・対象地域の特性を活かし、十分な成果をあげていると思われる。また、多くの数値目標を達成しており、事業が順調に進んでいることがうかがえる。 ・対象地域の特性を活かし、十分な成果をあげていると思われる。 ・医療関係職種は医師のみでなく多職種で医療が実践されている時代であるため、様々な職種を効果的に活用することが、効率的、効果的な医療の実現のために今後課題となるのではないか。 ・特定行為の実践などを始めとする医療従事者間のタスクシェアの推進が、在宅医療の推進につながるなどの波及効果にも期待したい。

2. 分野別状況 (2) 地域活性化総合特区 ② ライフ分野

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
東九州メディカルバレー構 想特区 (大分県、宮崎県)	4.4	4.2 進捗度 ・研究開発 プロジェクト数 183% ・医療関連機器 の市場化件数 300% ・新規医療機器 製造登録事業 所・製造販売許 可業者数 50% ・医療関連機器の 海外展開数 50% 等	4.2 規制の特例等 ・非治験臨床 性能評価制度 適用の拡大 財政支援等 ・医療関連機器 産業参入促進事 業 地域独自の取組 ・大分県医療 機器産業参入 加速化事業 ・宮崎県産学官 共同研究開発 補助金 等	4.5	<p>・産官学連携プロジェクト及び医療関連機器の市場化が想定以上に進んでいることは評価できる。</p> <p>・開発領域によって多少のバラツキは見られるものの、十分な実績があげられていると思う。</p> <p>・初年度であり、コロナの影響も残る中、努力されていると評価したい。今後の発展を図る上で、数値目標についてよく検討されることを期待したい。このプロジェクトの最終ゴール(アウトカム)を見据えた目標を設定してほしい。現在の目標は多く「プロセス」にかかる目標値であり、これらを実施した結果どのようなアウトカムを求めるのか検討してはいかかが。</p> <p>・総合的に順調な進捗であることがうかがえる。評価指標(1)(2)(5)は目標値を高い水準で達成している点が評価できる。その一方で目標値が適切な水準にあるかを今一度確認されたい。</p>

2. 分野別状況 (2) 地域活性化総合特区 ② ライフ分野

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
ふじのくに先端医療総合特区 (静岡県等)	4.4	4.1 進捗度 ・がん診断装置・診断薬の開発 200% ・その他医療関連製品の開発 104% ・医療分野に活用可能な山梨県企業の高い技術力について、静岡県企業がファルマバレーセンター及びメディカル・デバイス・コリドー推進センターに相談した件数 103% 等	4.4 規制の特例等 ・国内品質業務運営責任者の資格要件について 等 財政支援等 ・医療機器等開発・参入支援事業 ・総合特区支援利子補給金 地域独自の取組 ・沼津高等専攻科「医療福祉機器開発工学コース」の開設 等	4.5	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡県と山梨県の連携も進みつつあるところが評価できる。 ・多方面にわたり、十分な実績をあげていると思われる。 ・高校・大学をも巻き込んだ多方面の取組が印象深い。 ・評価指標(1)(2)(3)は目標値を高い水準で達成しており順調な進捗であることがうかがえる。 ・高齢者住宅の開発は今後の発展を期待したい。 ・評価指標(4)(5)の目標値未達はコロナ禍から回復途上の状況にある影響があると推察するが、影響が長引く場合には情勢に応じた工夫に期待したい。

2. 分野別状況 (2) 地域活性化総合特区 ② ライフ分野

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
みえライフイノベーション総合特区 (三重県)	4.4	<p>5</p> <p><u>進捗度</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスケア分野におけるデータ、デジタル技術を活用した取組 100% ・ヘルスケア分野の製品・サービスの増加 100% ・ヘルスケア産業の振興 98% ・ヘルスケア分野企業(第2創業含む。)及び研究機関の立地件数(累計) 105% 	<p>3.8</p> <p><u>規制の特例等</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康増進に資する機能性食品の効能効果の表示・広告の実施 <p><u>財政支援等</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合特区支援利子補給金等 <p><u>地域独自の取組</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域未来投資促進法に基づく法人税、所得税の課税特例 ・市町連携型金融支援補助金等 	<p>4.3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・MieLIPの地道な支援によって県内の事業者のヘルスケア分野の事業拡大を実現している点が高く評価できる。 ・統合型医療情報データベースに集積された医療情報の今後の利活用の方向性が注目される。 ・各種特例措置、支援措置をもっと活用した積極的な展開が期待された。 ・多くの指標で数値目標を達成しており、活発な取組や着実な進展がうかがえ評価できる。 ・統合型医療情報データベースの更なる活用が進むよう、医療情報の二次利用の環境整備に関しても、より利用しやすい環境になるよう、現場からの要望を伝えるなどの役割にも期待したい。

2. 分野別状況 (2) 地域活性化総合特区 ② ライフ分野

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
さがみロボット産業特区 (神奈川県)	4.2	4 進捗度 ・特区発ロボットの商品化状況 108% ・実証実験等の実施件数 145% ・生活支援ロボットの導入施設数 144% 等	4 規制の特例等 ・医療機器製造販売承認等の手続の円滑化(薬事法) 等 地域独自の取組 ・「セレクト神奈川NEXT」等による企業誘致の促進等	4.3	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援ロボットの開発等に新規参入する企業数についてはやや伸び悩みがあるが、実際のロボット開発や商品化、導入が順調に伸びていることは高く評価できる。生活支援ロボットにより事業者や家族の負担が減るなどの影響があったかどうかについても評価可能であれば検討をお願いしたい。 取組目標達成において、若干のバラツキが見られるが、全般的には十分な実績があがっていると思われる。 多様な場面で生活支援ロボットの開発・実装が進められている。実装の今後としては、導入だけではなく効果検証や持続可能性など実生活への適用について更なる検討を期待したい。 社会情勢に応じた新たな取組を実施した点を高く評価したい。生活支援ロボットを真に普及させるためには多くの供給側企業の参加が不可欠であることから、評価指標(3)の目標達成に向け継続的な一層の工夫に期待したい。

2. 分野別状況 (2) 地域活性化総合特区 ② ライフ分野

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
岡山型持続可能な社会経済モデル構築総合特区(AAAシティおかやま) (岡山市)	4	3.7 進捗度 ・介護保険給付費の抑制 58% ・最先端介護機器等の活用による産業振興 107% ・在宅高齢者の増加とQOLの向上 94% ・生涯現役社会づくりの推進 50%	4.1 規制の特例等 ・地域活性化総合特別区域介護機器貸与モデル事業 ・訪問介護・訪問介護事業者に対する駐車許可簡素化事業等 財政支援等 ・老人保健健康増進等事業 地域独自の取組 ・医師向けの在宅医療に関する研修会の実施等	4	<p>・インセンティブ事業やアウトカムの積極的な評価など興味深い取組が続けられているが、事業者の事務作業負担を軽減する工夫を行うことが取組の持続可能性や一層の拡大には重要だと思われる。</p> <p>・個別領域において達成度合いに多少のバラツキはあるものの、全体としては十分な成果が上がっているように思われる。</p> <p>・市民の実生活に直結した具体的数値目標を使用しているため他所に比べ自己評価が低いだが、取組の内容はどれも充実しており、評価を高くした。継続的な取組を期待したい。</p> <p>・評価指標(1)に関しては、目標値に未達であるものの、利用者の状態像改善を伴う介護給付費の抑制を目指す取組であるというその方向性を含めて評価したい。</p> <p>・評価指標(4)は一定の成果を上げたものと評価する一方で、注目の高さを生かし今後の一層の推進に期待したい。</p>

2. 分野別状況 (2) 地域活性化総合特区 ② ライフ分野

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
群馬がん治療技術地域活性化総合特区 (群馬県)	3.9	4.8 進捗度 ・重粒子線治療技術の難治がんへの応用 100% ・医療・ヘルスケア産業振興 104% ・医療系人材の育成 95% ・事業化人材の育成 120%	3.3 規制の特例等 ・高精度重粒子線がん治療技術開発事業 ・総合特区支援 利子補給金 地域独自の取組 ・医療機器・介護機器等事業化 支援補助金 ・医療・ヘルスケア関連事業化 支援補助金 等	3.8	<p>・これまでの医療産業振興の取組が雇用者数の上昇とつながっていることは評価できる。</p> <p>・事業の核となる重粒子線治療において一定の進捗が得られていることは評価に値すると思われる。今後の治療普及に向けての取組を期待したい。</p> <p>・活動内容が少人数の専門職育成や事業者への研究開発費用の支援等、一部に限られており、特区の特徴を活かしているか疑問が残った。</p> <p>・評価指標(1)では、過去年度の遅延があった中でも目標の登録を完了できた点を一定の成果として評価したい。</p> <p>・評価指標(3)「医療人材の育成」が目標に未達であるが、評価書の要因分析にあるとおり、人数が少数であること・次年度の候補者／予定者がいることなどから、全体としては順調であると評価できる。</p>

2. 分野別状況 (2) 地域活性化総合特区 ② ライフ分野

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
国際医療交流の拠点づくり「りんくうタウン・泉佐野市域」地域活性化総合特区(大阪府、泉佐野市)	3	3.3 進捗度 ・国際医療交流の推進 65% ・訪日外国人へのホスピタリティや地域魅力の向上による訪日促進 66%	3.1 地域独自の取組 ・国際医療交流の拠点づくり促進補助金 ・宿泊施設設置奨励金 等	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人がん患者数が増えている一方で、円安局面の中そこからの医療サービス収入が伸びていないことは、付加価値の面で競争力が低いサービスとなっていることがうかがえる。幹細胞治療や免疫細胞治療も含め提供サービスの付加価値を高める方策が必要と思われる。 ・COVID-19の影響を大きく受けた分野が散見されるが、外国人がん患者等受診数や地域通訳案内士(特区ガイド)活動件数は実績値が目標値を上回っているなど、遂行可能な領域については、十分な実績をあげていると考えられる。 ・規制の特例措置や各種支援措置をより積極的に活用できるとよかった。 ・国際医療交流の拠点として国内外の患者に質の高い医療を提供するためには、外国人医師との交流・受入・臨床修練は重要な取組であると思われるため、目標達成に向けた一層の工夫に期待したい。